

愛 & ハート

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団

愛の家

- 日中活動やレクリエーション活動
- 入社3年目で感じたこと
- 相談支援というお仕事

あいハート須磨

- ノーリフティングケアの定着に向けて
～その②～
- 『個別企画』手芸

あいハート離宮前

- コロナ禍に負けず楽しみを提供したい
- 新型コロナウイルスと向き合った
3年を振り返る

2022年度 第3四半期 運営状況

かがやき
利用者さんの
作品



きぼう
利用者さんの
作品



263号

2023 February

日中活動やレクリエーション活動

●かがやきスタッフ
小戸 叶羽

現在、日中活動が始まり歩行訓練を行っています。当初は利用者さんも状況を理解できず、戸惑いながら参加している様子でしたが、歩行訓練時に流していた音楽CDを別のCDに替えたり、本人が参加できそうなタイミングで声掛けをおこなったりするなどの対策をしました。今ではフロアを歩くだけではなく、流れている音楽にあわせて身体でリズムをとったり、一緒になって音楽を歌うなど、利用者さん一人ひとりが違う楽しみ方で日中活動に取り組んでくれています。

晴れの日は、運動場に出て寒さを忘れるほど身体を動かし、キャッチボールやサッカー等、室内ではできない運動でも喜んでくれている様子が見受けられます。

毎月のサロンも、利用者さんが楽しみにしてくれているイベントの一つです。サロンが終わって

からも数日間「〇〇を食べられて嬉しかった！」と笑顔でサロンについての説明をしてくれます。

12月は保護者会からクリスマスにケーキを頂きました。クリスマス之歌を歌い楽しんで過ごしてくれました。レクリエーション活動の中で新年会の鍋パーティ



ーや節分の豆まき等のイベントに取り組み、コロナやインフルエンザ対策の中で最大限に利用者さんに楽しんで貰えるよう力をいれて取り組んでいます。



そのときの写真を見返すと全員が良い笑顔で写っている写真ばかりです。コロナで帰宅が延びてしまいストレスを感じてしまっている利用者さんが多いですが、サロンやレクリエーション活動をとおし少しでもストレスの解消に繋がれるよう今後も取り組んでいきたいと思えます。

コロナやインフルエンザがおさまったら利用者さんだけでなく支援者側も楽しめるようなイベントができればいいなと思います。

入社3年目で感じたこと

●グループホームスタッフ
新家舞

愛の家に入社し、グループホームに配属となってもうすぐ3年になります。入社当初は、仕事内

容を覚えることや利用者さんの日常生活を支援することだけで精一杯でしたが、最近は任せてもらえる仕事が増え、自分の意見や新しい提案を求められることも多くなりました。

私は昔から指示されたことはできても、自ら率先して行動をすることが苦手でした。しかし、私にとって少し気持ちの変化がみられた出来事がありました。それは2022年の春先に愛の家で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、人手不足となったため、主任が他部署の応援に入ることになったときです。短期間でしたが、主任が不在の間グループホームにおける業務は私が主体となることになりました。主任から直接指示を受けることが難しくなり、世話人さんの配置の調整や、保護者さんからの連絡対応、利用者さんの通院付き添いなど今まで以上に自分の行動や判断に責任を感じました。

そのような経験をとおして、自分が如何に「指示待ち」になっていたかということを感じました。自分で考える力や意見を人に説明する力がまだまだ足りていないことがわかり、これまで以上



に積極的に利用者さん一人ひとりと関係を築き、利用者さんの体調や気持ちの変化に対応できるよう意識しながら日々の業務に取り組んでいます。

この約3年間、私は主任や世話人さんなど周りの人に頼ってしまうことが多かったように思います。しかし、未熟な私に親切に指導していただき、利用者さんとも積極的にコミュニケーションを重ねることで、自分の成長も感じられるようになりました。



これからも様々な経験を積む中で自ら考えて選択する場面を増やし、主体性をもって自分のスキルを高めていきたいと考えています。そして常に感謝の気持ちを忘れず、学んできたことを活かして、利用者さんが安心してその人らしい生活がおくれるように日々試行錯誤しながら支援していきたいと思います。

相談支援というお仕事

● みたいリーダー
片岡 正年

「はたらけどはたらけど猶わが生活楽にならざりぢっと手を見る」。石川啄木の第一歌集『一握の砂』に収録されたこの名歌。相談支援事業所が抱える問題そのもののように思うのはわたしだけでしょうか…。

私たち相談支援専門員の仕事は、障がいのある本人や保護者などの相談対応、必要な情報提供、福祉サービスへの利用サポート、権利擁護のための必要な援助をします。相談内容としては人間関係の悩みや金銭問題、不安になる

こと等があります。そのような相談事に対して、本人の意見を尊重しつつ、周りの関係機関と調整し、納得してもらえようようにコーディネートしていきます。すぐに解決できるものもあれば長期にわたることもありま。国からは相談内容に関しては明確な基準がありません。そのため困ったことがあれば何でも相談員に相談することが多くなっています。私たちもどこまで関与できるのかを考えながらやらなくてははいけません。

これは実体験ですが、借金の保証人になって欲しいとの相談もありました。金銭トラブルのある利用者さんの件では、相手側から居場所を教える、隠すと共謀罪だと怒鳴られたこともあります。そんな相談支援の仕事ですが、利用者さんにとって一番大事で重要なのは相談員が取りまとめることで共通した支援方針でサービスを受けられることです。ただ、冒頭に書かせていただきましたが、



国からの報酬単価は高くはありません。経営面ではどこの事業所も苦勞していると思います。もっと認められる職種になって欲しいと切に願っています。

私自身、愛の家で働いて30年、そして相談員をやり始めて3年…これからも努力して頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。



あいハート須磨

ノリリフティングケアの 定着に向けて②

●特養主任 三田 賢人

特養部門は昨年6月に、介護する側・される側双方において安心・安全な持ち上げない・抱え上げない・引きずらないケアの実践を目的としてノリリフティングケアのプロジェクトチームを発足し、7名のメンバーがそれぞれ役割をもって活動を続けています。

昨年、愛&ハート2022年8月号(260号)でノリリフティングケア定着に向けた取り組みをご紹介しましたが、今回はその後の進捗状況を報告させていただきます。

昨年9月からプロジェクトメンバー全員で「ノリリフティングケアマネジメント研修」に参加し、定着に向けた具体的な取り組み内容や介護技術を学ぶことができました。2月をもって研修は全て終了しましたが、今後の計画が明確になり、ようやく定着に向けたスタート地点に立てたような気がします。

また、取り組みの更なる充実のために、ひょうごノリリフティン

グケアモデル施設の認定を目標とすることを決めました。モデル施設認定に向けてレポートを提出し、それと並行して次年度から特養の全職員がノリリフトケアを理解し定着していけるようにマニュアルの作成などを今年度中に完成させる予定です。

すでに設置されている天井走行リフトを使用していきたいながら、近々スタンディンググマシン(HUG)や床走行リフトなどの機器の導入を予定しています。

機器の導入だけでなく腰痛リスクの抽出をしながら、原因となる業務や作業の見直しなども実施していきます。

プロジェクトチームで定めた理念である「みんなですます。ノリリフティング」がしっかり根付くよう、プロジェクトメンバーが中心となり、施設の協力も得ながら特



▲スタンディングマシン

◀床走行リフト

養職員全員でノリリフティングケア定着に向けて取り組みたいと思います。

現状は職員の性別・年齢・身体状況等の事情によって、多くの場面で職員個々の介護業務の制限(例：重度のご利用者の移乗介助が困難など)が生じていますが、ノリリフティングケアの定着によって職員誰もが業務の制限なく、ご利用者の皆様にとっても安心・安全な介助が提供できるようになる可能性があります。これからも職員の業務負担が軽減でき、安心して働ける職場環境作りへと繋げることができるように取り組んでいきたいと思えます。

『個別企画』手芸

●デイサービス主任

堀下 淳子

デイサービスで実施している選択プログラムの一つ『手芸』では、月に1〜2作品を制作しています。

まずはデイサービスの入り口に掲示した見本で皆さんの創作意欲を仰いでから、参加者の確認をしています。時折、作品によっては事前にカタログをお見せしてからご用意することもあります。今回は天然

木のさくらあーと『波うさぎ』をお見せした際に、他の作品を個人購入された方のお話です。

Mさんは「A3サイズの熊本城」を制作したい」とご希望。ここまでのサイズになると、金額も高くなるので、本当に制作されるか何度も確認しました。

すると、Mさんは長崎の生まれで、先祖は武士。家には刀や懐刀が沢山あり、熊本城にも何らかの縁があるとのこと。そのため、熊本城を見た時にその当時は思い出し、弟さんに「作ってあげたい」と思われたそうです。この『熊本城』は、漆塗りの黒壁が特徴的で七種類の天然木を使用し、威



敵ある姿を表現しています。パークは単純な形ですが、数が多く根気がある作業です。制作時間にお出しすると、まず一声は「これか！」と。切り取ったパークの裏紙をはがし、下絵ボードの指定番号に貼る時には「ここであって？」と確認しながら、少しずつ進めていきました。週2回ディスプレイのご利用で、完成までに約3週間かかりました。

完成すると、他のご利用者の方からも「凄いわね、いいのが出来たね」と声がかかり、Mさんも「暫く、家に飾っておくわ」と嬉しそうです。「あれ？弟さんにはあげないんですか？」と職員が尋ねると、「飽きたらね」と仰っています。頑張った作品ですから、「すべてには……ですよね(笑)」。

後日、他のご利用者からも「私もお城が作りたい！」とご要望がありました。これが、『ご利用者が楽しみ・やりがいを感じながら、意欲を持って自主的に継続的な活動に取り組める』選択プログラムの目的であり、醍醐味なんです。



あいハート離宮前

コロナ禍に負けず 楽しみを提供したい

● あいハート離宮前主任
宇根 知英

新型コロナウイルスが再び猛威を振るっていますが、離宮前では年末始にご入居者様が楽しみにされている恒例行事を開催することができました。

年末には昨年同様に規模を縮小しながらもクリスマス会を開催しました。実行委員を中心に職員が知恵を絞り、如何にして楽しんで頂けるかを考え、女性職員5名がオカリナによる唱歌とハンドベルによる



クリスマスソングの演奏を披露させて頂きました。オカリナの演奏では皆様からも歓声や声援、アンコールまで頂戴しました。ハンドベルでは多くのご入居者様が一緒に歌ってくださいました。イベント終了時には「凄い」「素晴らしい」などの声を頂戴しました。

コロナ禍において、ご家族との面会もままならず外出もできない不自由な思いをされているご入居者様のために、たとえ一時でも楽しんで頂きたいとメンバーは休憩時間や勤務終了後などに、寒空の屋上や会議室などを使用して練習を重ねてきました。



初詣は今年も中止となりましたが、残念がるご入居者様の顔を見て、せめて雰囲気だけでも味わって頂きたいとフロアごとに離宮前神社と称した鳥居のモチーフを作成し、願い事を添えた絵馬を奉納して頂きました。

もう一つの恒例行事である餅つき大会は年末に実施することができず、「やっぱり寂しいね」という声が寄せられ申し訳ない思いでした。しかし、年明けの鏡開きに合わせて開催することができ、「やっぱり楽しいね」「やっと正月が来たね」と皆様に喜んで頂くことができました。

制限が続く中での生活が約3年続いています。新入居者様、新入職員も増えましたが、離宮前の自慢である行事やサークル活動が衰退しないように知恵を絞って、制限の多い中でも楽しみのある生活を送って頂きたいと思っています。

離宮前が掲げている「感動を得るサービス」を合言葉に、これまで以上に職員一丸となって頑張っています。

新型コロナウイルスと向き合った3年間に振り返る

■ あいハート離宮前施設長 古崎徹

2019年12月に中国の武漢で新型コロナウイルス感染症が報告され、我が国では翌1月に中国に渡航歴があった男性の感染が確認されました。

その後、2月には感染者を乗せた客船が横浜港に入港し、3月にはタレントの志村けんさんが、4月には女優の岡江久美子さんが亡くなられて多くのファンが悲しみに包まれるなど、感染者の死亡が日々報道されるようになり、日本中がこの感染症に震撼しました。

それから約3年が経過しようとしています。政府はこの感染症を2類相当から5類に引き下げる方針です。一日あたりの死者数が過去最多を更新する中でも緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されることはなく、移動や集会等の規制は緩和に向かっていきますが、私たちには多くの反省すべき課題を突きつけられたのも事実です。

エフモや重症ベッドの不足により失われた命がありました。病院では家族であっても面会することができず、当ホームでも面会制限や不要



不急の外出は自粛をお願いするなどご入居者様にご心配とご不自由をお掛けしました。

ワクチンの接種開始は先進7か国の中で最も遅く、各地でクラスターが発生し、医療従事者への差別もありました。マスクや消毒液が不足する中で、国は全世帯にマスクを配布するりましたが、品質や検品に係る混乱がありました。マスクでは自治体による備蓄格差が露呈した一方で、病院・施設の在庫も底をつき、当ホームに於きましても職員は不織布マスクを何日も使い回さざるをえず、在庫や備蓄の在り方を再考する必要に迫られました。

一方でこの禍により、我々は直接会って息災を確認することや一緒に食事をしながら談笑することなど、人とのつながりがいかに貴重なかを再認識したのではないのでしょうか。

国はコロナ感染症や全国で発生した自然災害を受け、有事に損害を最小限にとどめつつ事業を継続するためのBCP(事業継続計画)の策定を介護施設に義務付けました。

当ホームに於きましても命を守るために必要な設備の導入や人とのつながりを維持できる環境の整備を検討するとともに備蓄の充実に図り、計画的に研修や訓練を実施するなど実効性の高いBCPを鋭意策定しています。コロナ感染症と向き合った3年間で得た教訓や反省などを風化させることがないよう、大いにこの計画に盛り込んで参りたいと考えております。



2022年度 第3四半期 運営状況

2022年4月1日から12月31日までの累計

資金収支計算書	本部	愛の家+きぼう	あいハート須磨	あいハート離宮前	脳梗塞リハビリ ステーション神戸須磨	合計※
介護保険事業収入	0	0	419,700,096	89,089,484	0	508,789,580
老人福祉事業収入	0	0	0	103,844,452	0	103,844,452
リハビリ等事業収入	0	0	0	0	14,614,600	14,614,600
児童福祉事業収入	0	64,160,777	0	0	0	64,160,777
就労支援事業収入	0	2,112,238	0	0	0	2,112,238
障害福祉サービス等事業収入	0	314,036,523	0	0	0	314,036,523
経常経費寄付金収入	12,661,714	205,000	886,200	5,000	0	13,757,914
受入利息配当金収入	861,100	21,355	21,852	295	16	904,618
その他の収入	5,600	2,649,813	5,046,370	7,171,659	0	14,873,442
事業活動収入計(1)	13,528,414	383,185,706	425,654,518	200,110,890	14,614,616	1,037,094,144
人件費支出	20,268,919	213,620,343	288,596,447	111,843,917	8,766,759	643,096,385
事業費支出	282,711	56,695,048	66,770,464	26,265,120	541,237	150,554,580
事務費支出	7,335,467	38,531,875	37,751,315	21,037,090	5,338,892	109,994,639
就労支援事業支出	0	2,345,456	0	0	0	2,345,456
利用者負担減免額	0	0	26,004	0	0	26,004
支払利息	0	0	1,364,745	1,731,617	0	3,096,362
その他の支出	0	592,913	4,283,900	1,657,901	0	6,534,714
流動資産評価損等による資金減少額	0	0	0	0	0	0
事業活動支出計(2)	27,887,097	311,785,635	398,792,875	162,535,645	14,646,888	915,648,140
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-14,358,683	71,400,071	26,861,643	37,575,245	-32,272	121,446,004
施設整備等収入(4)	0	0	56,918,000	5,874,442	0	62,792,442
施設整備等支出(5)	114,800	2,348,069	103,377,863	17,824,146	0	123,664,878
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-114,800	-2,348,069	-46,459,863	-11,949,704	0	-60,872,436
その他の活動収入計(7)	15,350,000	400,000	39,851,503	409,112	4,000,000	60,010,615
その他活動による支出(8)	5,010,539	7,709,600	10,642,153	2,458,006	70,994	25,891,292
その他活動収支(9)=(7)-(8)	10,339,461	-7,309,600	29,209,350	-2,048,894	3,929,006	34,119,323
当期資金収支差額合計(3)+(6)+(9)	-4,134,022	61,742,402	9,611,130	23,576,647	3,896,734	94,692,891

※合計欄は内部取引消去により各拠点の合計とは一致しません

ボランティア 活動状況	愛の家			あいハート須磨・離宮前			合計		
	NTT労組・ 退職者の会	その他	計	NTT労組・ 退職者の会	その他	計	NTT労組・ 退職者の会	その他	計
利用者支援	0	14	14	0	235	235	0	249	249
施設運営(行事等)	0	50	50	0	23	23	0	73	73
施設整備	0	0	0	91	0	91	91	0	91
合計	0	64	64	91	258	349	91	322	413

※新型コロナウイルスの影響により、受入を制限している時期がありました。

事故発生状況	愛の家			あいハート須磨・離宮前		
	受診	診察不要	計	受診	診察不要	計
転倒による裂傷、骨折等	5	2	7	4	0	4
誤飲・誤嚥・誤薬	0	0	0	0	0	0
裂傷、骨折、その他	3	2	5	0	0	0
無断外出	0	3	3	0	1	1
合計	8	7	15	4	1	5

お客様の声承り状況	愛の家	あいハート 須磨・離宮前	合計
ケア・支援内容	0	2	2
接客態度	2	0	2
嗜好・要望	0	0	0
設備・備品不備	0	1	1
その他(家族対応等)	2	2	4
御礼	3	1	4
合計	7	6	13

アルソック株式会社梅田支社より、「活動助成金」を頂戴しました。

日時:令和5年(2023年)2月1日(水)15:30~
場所:コミュニティプラザ大阪(法人本部)



左:アルソック株式会社梅田支社 藤野支社長
右:当法人 橋本理事長

アルソック株式会社梅田支社より、支社長の藤野様にお越しいただき、令和4年度ALSOK
ありがとう運動財団「活動助成金」に係る目録贈呈式を行いました。

いただきました「活動助成金」につきましては、当法人が運営する愛の家にて有効かつ
大切に使用させていただきます。今後共、よろしくお願いいたします。

ご支援を くださった方々

(1月)

● 寄贈品

清水 祐子 様
(1件)



ありがとう
ございます

2024年度介護保険制度改正の動向について

厚生労働省は2022年12月20日に「介護保険制度の2024年度の見直しに関する意見」を公表しました。次の介護保険法改正に向けて議論されてきたそれぞれの論点ごとに、今後の方針が意見としてまとめられています。

論点のうち主な7点について、それらがどのような方針となったのかをご紹介します。



2024年度改正の論点	12月20日時点の方針
① 軽度者の生活援助サービスなどを介護保険から総合事業へ移行	次の改定(2027年)で結論を出すこととなり「先送り」となる。
② ケアプランの有料化	
③ 65歳以上の中高所得者の介護保険料引き上げ	2023年の夏までに結論を出すこととなる。
④ 老健などの多床室の室料を保険対象外として自己負担へ	
⑤ 利用者負担が2割・3割の人の基準の見直し	2割負担の新基準は2023年夏までに結論を出し、3割負担の新基準について、今回は「先送り」、次の改定(2027年)での見直し。
⑥ 新たな複合型サービスの創設	通所介護と訪問介護を組み合わせた新たなサービスの類型が、2024年度から介護保険に創設される。
⑦ 経営状況の見える化	2024年度から全ての介護事業所に財務諸表の公表が義務付けられる。

論点①では、要介護1・2の方への訪問・通所介護を介護保険の給付から外し、市区町村の総合事業に移行してはどうか、という議論が行われてきましたが、今回も結論を先送りする方針となりました。

医療での後期高齢者保険料の引上げや、止まる気配のない物価高騰など、高齢者の負担は重くなるばかりで、これ以上の負担増は慎重に進めるべきという声が高まっています。国民の(特に高齢者の)負担増につながる改定はほぼ「先送り」となっています。

ただ、先送りとなった論点についても今年の夏以降に結論が出され、2024年の介護報酬改定に大きく反映されてくるかもしれません。引き続き、議論を注視していきます。



「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等のようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 …………… 072-494-0123
- あいハート須磨 ……… 078-737-2525
- あいハート離宮前 …… 078-731-2130
- 法人本部 …………… 06-6458-5723

【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団
 〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73
 TEL 06-6458-5723
 Website <https://www.zendentu-kinki.jp>
 Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>
 E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】

理事長 橋本 寿樹

